



校外での活動2(見学&遠足)

10月20日(金)に、4年生が遠足に行きました。23日(月)には、3年生が遠足に行きました。4年生は、坂の上の雲ミュージアムと子規記念博物館へ、3年生は中央消防署と防災センターへ行き、見学を兼ねて遠足を実施しました。

坂の上の雲ミュージアムは秋山兄弟、子規記念博物館は正岡子規に関する資料が展示されています。4年生は社会科で「郷土伝統文化と先人の働き」について学習をします。私たちが生活をしている愛媛県や松山市にゆかりのある人物について知ることは、これからの学習に関心をもつきっかけになるはずで

す。3年生は社会科で「火事からくらしを守る」という学習をします。消防署の役割や消防署で働いている人たちの努力などについて、今回の見学で理解することができたと思います。消火器の使い方や火事による煙の怖さも体験することができました。

前号でもお伝えしましたが、教室の学習で全てが理解できるわけではありません。タブレット端末で検索して得た情報よりも、インタビューをして聞いたことの方が深く心に残ります。今回の遠足は、子どもたちにとって大変実りのある活動になりました。

子どもたちは、車座になって会話を楽しみながら友達と弁当を食べ、公園の遊具を使って元気に遊んでいました。コロナ明けの遠足の楽しさを、ようやく味わうことができたのも、子どもたちにとって、とても意味のあることでした。



国際理解のために

10月24日(火)に認定NPO法人国際地雷処理・地域復興支援の会(IMCCD)理事長、高山良二さんをお招きして、6年生が、国際理解、国際貢献についてお話を聞きました。高山さんは、愛媛県出身の元自衛官で、カンボジアの地雷撤去のために尽力されている方です。約20年前から、講演活動を続けていて、10年ほど前にも潮見小学校でお話をされています。国際貢献については、「してあげている」というのではなく「させてもらっている」という思いで活動しているとおっしゃっていました。とても気さくな方で、子どもたちにサインを求められても、笑顔で対応されていました。

講演の中では、カンボジアとオンラインで結び、現地の学校の様子を知ることができました。地雷撤去だけでなく、地域の発展にも目を向けているところに、世界的視野の広さを感じます。昨今の国際情勢の緊迫感、テレビや新聞などで報道されているので、高学年の子どもたちであれば何か感じるものがあるはずで

